

4-13 自然災害の経験から考える感染症対応

新型コロナウイルス感染症の蔓延は地震・津波や水害といった自然災害と類似しているところは突発性で、対応という点では、見知らぬものには恐怖を感じて、模倣するものを見つけられないようにも見えます。何か、特別の今回の感染症であるが故の対応を国や自治体で検討されていますが、法整備を含めてこれまでの我々が経験してきたような災害対応が応用されないのか疑問に思います。いまの法整備の中で対応できるものがあるように思います。そして、経験の中から新たな方策は、様々な知識や知見を積み重ねることで生まれるような気がしており現象の違いだけであわてることはないと思います。我々人類は、ある日突然に閃いてというよりは、経験を積み重ねながら、知識を整理しながら新たなものを案出してきたのだと思います。したがって、今回のこととにかく多くのデータを共有して、専門家を中心としてPDCAを繰り返すことだと思います。これだけ多岐な影響があるものですので、それぞれの組織では一所懸命ではありますが、情報の共有をしていかなないと、なかなか対策が出てこないような気がします。災害への対応は普段からの潜在能力が試されます。よく言われるのは対応の質とスピードです。今回の感染症についても、わが国が発信地ではなかったもので、事前の情報収集はあったとは思いますが、問題はそこで適切な分析が行われていたのかどうかであります。と同時に、最悪を想定しての危機管理が構築されていたかどうかではないでしょうか。もちろん、想定通りにはならないにしてもそれを状況に合わせて修正することで、最低限の対応は可能になると思います。このようなことは既に、わが国では多くの災害で経験してきているわけで、それをどう変化させて応用するのかという能力が確かめられていると思っています。報道などでは、政府の後手が言われますが、そうであればこのことができていなかった、いままでの経験知が活かされていなかったということになります。そして、皆の危機意識を変えていかないと、すぐに限定したもので対処しようとしての基礎力のないところでは困難が伴います。これは、自然災害に対しても全く同じでことだと思います。咄嗟に、特別な知恵や工夫が出るということではなく、科学の不定性ということがある中で、重要なことは経験値をどう生かすのか、その基盤をしっかりと持っていないと、感染者や被害者を増加させることにもなります。

この種の災害への対応は、実践していく中での問題点、課題を速やかに明らかにして、解決するという能力と環境だと思います。おそらく、今後ますますそのための教育力とか理解力が国民に求められるのだと思います。人類はある意味で感染症や自然災害との戦いが避けられないわけで、平穏時にこそ、このような知識を次世代へ残せるような行動が必要な気がします。一過性のものど元過ぎれば終わりではなく、いつかまた同じ状況が再現されることは確かです。そのため何を学び伝えるべきなのかを考えていくこと、そしてそれを確実にするためのシステム作りをしていく必要があります。具体的には、自然環境をしっかりと学ぶこととデータサイエンスの人材確保を含めた底上げを急がなければなりません。